

大分県新長期総合計画策定県民会議 第2回安心部会 委員発言要旨

日時：令和5年10月31日(火)14:00～16:20

場所：レンブラントホテル大分 2階 久住の間

| No. | 項目 | 発言要旨 |
|-----|-----------------------------|--|
| 1 | 安心1 (2) 防災 | ・大規模災害に備え、企業との連携を強化してはどうか。具体的には、備蓄物資や救援車両、救助道具等の貸与・供与の仕組みをつくってはどうか。 |
| 2 | 安心1 (2) 防災 | ・私たち県民は、県と協定を締結している企業から電源等を直接借りることができるのか。医療的ケア児のご家族は、災害時の電源確保に不安を持っている。 ・また、県民は、災害時の県と企業との協定によってどのような支援を受けられるのかなど、その内容を十分に知っているのか。 |
| 3 | 安心1 (2) 防災 | ・福祉避難所の環境整備、これはぜひ取組に入れてほしい。医療的ケア児や障がい者など様々な弱い立場の人たちのことを考えると、一般の避難所とは分けた形で、福祉避難所をしっかりと整備してもらいたい。 |
| 4 | 安心1 (3) 防災 | ・災害時要配慮者への支援は重要。地域や商店街、ホテル事業者等が行う避難訓練には、要配慮者への支援を重要な要素として組み入れてもらいたい。 ・また、市町村から提供される要配慮者の身体状況等の情報が古く、実際は本人の状態が悪化していることがある。定期的に更新し、地域の防災活動団体等の支援者と共有することで避難の実効性を上げていかなければならない。 |
| 5 | 安心1 (3) 防災 | ・「人的被害ゼロ」の実現は大変難しいだろうが、旗振り役を県が担い、県民がここを目指してやっていく。ゴールが明確で素晴らしいと思う。 ・これまで「共助」というと、地域、自治会を中心に考えてきたところがあるが、高齢化や自治会加入率の低下により、地域によっては共助の体制づくりが難しくなっている。仕事をしている人にとっては、職場が共助の場になることもある。地域だけに目線を限定せず、実情に応じた共助のあり方を考え、支援する必要がある。 |
| 6 | 安心1 (4) 感染症 | ・「感染症流行への備え」の10年後の目指す姿やそれを実現するための取組等は、記載のとおりでよいと思う。県医師会も行政と一緒に動いているところ。 |
| 7 | 安心2 (1) 地球 温暖化 | ・現状と課題の⑩に「電気自動車の導入促進」とあるが、電気自動車だけだろうか違和感を感じている。水素自動車等も考えられることから「CO ₂ 排出を抑制した自動車」といった記載にしてはどうか。 |
| 8 | 安心2 (2) 循環型 社会 | ・現状と課題の⑪に関連して、実は温泉地の河川水質は環境基準を満たしていない。特例として見逃されている現状。こうした状態が続くのであれば、10年後に美しく豊かな水環境が維持されているとは考えにくい。水産業や観光産業にも打撃を与える懸念がある。この問題には前向きに取り組んでももらいたい。解決には、温泉科学、環境、経済など分野横断的思考が必要で、オールラウンドな人材の育成が求められる。 |
| 9 | 安心3 (1) 子育て | ・「共働き」をするなら「共育て」もしなくてはならない。現状と課題⑫に「夫が子育てを手伝う」という言葉があるが、10年後には「手伝う」という感覚そのものがなくなっていなければならないと思う。男性の意識改革にしっかり力を入れてほしいし、職場の子育てへの理解促進も大事 ・そうした中で、母親を中心にした現在の子育て支援策は、ファミリー支援ヘシフトさせ、父親の当事者性を高めながら、父親支援を充実させていく必要がある。 ・子育て支援施設は土日祝日に開所していないところが多い。働く保護者を応援するため、土日祝日に開所していて、子育て支援サービスを利用できる場所を増やしてほしい。 ・10年後に親になる高校生たちが最も力を入れてほしいと考えているのは「こども子育て支援」とのアンケート結果の紹介があった。この期待に応えなければならない。 |

| No. | 項目 | 発言要旨 |
|-----|-------------------------------|---|
| 10 | 安心3 (1) 子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・「目指す姿」に書かれていることは、いずれも実現されるべきと思っている。 ・保育事業者としてもぜひ多様なニーズに応えていきたいが、現状でも人材不足が顕著。保育士等になる人材が減っており、それをどう解決していくのが課題。保育士等の多様な働き方を実現する中で、人材確保ができればと考えている。 ・また、10年後に大人になる子どもたちの「育ち」を支える幼児教育・保育の質の向上にもしっかり取り組まなければならない。 |
| 11 | 安心3 (1) 子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが病気になったときには、父親・母親関係なく仕事を休んだり早退したり、勤務後の夜間でなく昼間のうちに病院に連れて行けるような企業の理解、環境整備が必要 ・また、「子どもまんなか社会」を考えるのであれば、高校生までの医療費無償化や予防接種費補助などについて、県内のどこに住んでいても同じ支援を受けられるようにする必要があると思う。 |
| 12 | 安心3 (4) 児童虐待 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の相談件数や事案の発生件数が増えている中で、対応する人員と施設が足りていないと感じている。一時保護しようにも定員が一杯といったことが現に起きている。人員と施設の両面を強化しなければならない。 ・児童相談所は、基本的には通報や相談を受けてから動き出すことになるため、子どもをよく見ている学校等との連携は今後も密にしていくべき。意見交換や情報交換が率直にできる場を増やすなど、よりスムーズな連携関係を構築しておいてもらいたい。 ・保護した子どもを里親に委託し、より家庭環境に近いところでケアしていくことは大変重要だが、一方で、被虐待児を親元に戻せるような「親教育」も必要ではないか。虐待未然防止の観点では、次代の親となる若い世代への啓発も必要だと思う。 |
| 13 | 安心4 (2) (3) 医療介護 | <ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査では、県行政に期待することの1位が「高齢者福祉の充実」で、高校生アンケートでは、就職したい業種の1位が「医療・福祉関係」となっており、これらをしっかりマッチングしていく必要がある。 ・医療・介護の職業に就く人には、ワクワクしたり笑顔になってもらいたい。ICTやDXを活用して、利用者・職員の双方にやさしい環境が構築できれば、より魅力的な職業になると思う。 ・日本の介護は20年の長い歴史に支えられており、海外から見て魅力的な技術を持っている。その中でも大分県は「ふくふく認証制度」により、事業者が質の高い介護に取り組むことを後押ししている。質の高い介護を外国人も日本人も一緒になって行うことをアピールできれば、国内外から見たときの大分の魅力になるし、なにより「高齢者の安心の暮らし」につなげることができる。 ・県内には「うすき石仏ねっと」のように、医療・介護・保健情報を関係機関で共有する取組がある。こうした取組を県域で一元化し、介護DXや医療DXと一緒に複合的に使えるようになれば、より便利になると思う。 |
| 14 | 安心4 (2) (3) 医療介護 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後は85歳以上の方が増加し、多死社会を迎える。人生会議やACP[※]の普及も必要。共生社会の観点では、高齢者の尊厳を重視し、「最期まで自分らしく生きることが出来る大分県」を目指す考え方もあってよいと思う。 <p>※人生会議、ACP(Advance Care Planning) 将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、家族や近い人、医療・ケアチームが繰り返し話し合い、本人の意思決定を支援する取組</p> |
| 15 | 安心4 (2) 医療 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想が進む中で、かかりつけ医と看取りも含む在宅医療は今後ますます重要視されると思う。行政と医師会がしっかり連携して体制を整えていく必要がある。 ・また、医療DXについて、災害救急医療の情報連携は県全体で一つにまとめる必要があると思っているのでぜひ検討してもらいたい。 |
| 16 | 安心5 (1) 障がい者 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の当事者団体と協働して交流会などの事業を実施している。医療的ケア児は140人ほどと、数は少ないとは言え、個々に様々なニーズがある。医療的ケア児と介護者、行政、NPOなどの中間支援団体が協力し合って支援等を考えるなど、医療的ケア児と直接つながる仕組みがあればよいと思う。 |

| No. | 項目 | 発言要旨 |
|-----|--------------------|--|
| 17 | 安心6 (1) 人権 | ・人権侵犯事件の総数は減少傾向にある一方で、部落差別に関する人権侵犯は増加している。配偶者暴力の相談件数も増えている。人権問題は、どれが重要でどれが重要でないという差はないが、県民意識を把握し、重点的に取り組む点を明らかにしながら、施策を実行していくのがよいと考えている。 |
| 18 | 安心6 (3) NPO | ・NPO活動の特長は、対象者の少ない様々な課題に対応する「多様性」、まだ社会に知られていない課題に対応する「新規性」にある。このため、必然的に運営は非効率になり、資金・人材不足という組織上の課題を持っている。 ・行政が新しい制度を設計する際は、計画立案の段階からNPOと協働するなど、NPOの持つ多様性や新規性を活かせるよう連携強化を図ってほしい。 |
| 19 | 安心6 (3) NPO | ・10年後の目指す姿について、①にあるように「NPO等の活動により地域課題が解決されている」のであれば、もはやNPOの存在意義は失われてしまっている。その場合、②の「NPOの自立的活動基盤の強化」は不要で、NPOは解散すればよい。これは素晴らしい未来だが、10年後にどういう姿に持っていくのか、書き方の問題だと思うので工夫してほしい。 |
| 20 | 安心7 (1) 防犯 | ・特殊詐欺や強盗、不法投棄、性犯罪などの取締りに今も取り組んでいること、今後その取組を強化していくことはよく理解できる。しかしながら、犯罪はなくなり、繰り返されており、必ずしも県民の安心につながっていないところもある。 ・県民の安心感を高めるために、二度と犯罪を繰り返させないための「再犯防止対策の見える化」を進めたり、分かりやすく「加害者ゼロ」を目標に掲げるなど、少し踏み込んだ取組も必要ではないだろうか。 |
| 21 | 安心7 (1) 防犯 | ・治安の維持には、警察はもとより、県民や関係機関・団体との連携が重要。街頭防犯カメラの設置や青色防犯パトロール等の活動強化を今後もお願いしたい。 ・交通事故防止の最も大切な点は、交通社会に参加する全員が交通ルールを守り、正しい交通マナーを実践すること。県民一人一人の交通安全意識のレベルをいかに高めるかが大変重要。これまでも地道に様々な取組をやってきているが、他に何かいいやり方がないか、今後の検討課題だと考えている。 |
| 22 | 安心7 (3) 食の安全 | ・消費者である県民の皆さんの食に関する正しい理解が不足していると感じている。また、それを習得する機会も不足している。そのため、消費者が表示をきちんと読み解いて商品を選択しているとか、消費者が監視しているといったことを、事業者側が実感していない、実感できていないといった現状がある。今後は、食品表示や食品衛生を知る機会をより多くの方に提供する取組を進めていく必要がある。 |